

<短 報>

ヒラタキクイムシ類4種の国内採集記録

田中 和夫¹⁾・山野 倫子¹⁾

Notes on Localities of Four Species of Lyctidae in Japan

Kazuo TANAKA and Michiko YAMANO

日本動物分類の一冊として1937年に刊行された中條道夫博士の「長蠹蟲科・扁蠹蟲科」によって日本のヒラタキクイムシ科は我々にとって同定容易な親しみ易い昆虫となった。戦後、同博士および故野淵輝博士、岩田隆太郎博士などによって新知見が追加され、ヒラタキクイムシ類の知識は益々完全なものとなった。諸氏の業績によると、現在の日本のヒラタキクイムシ科は7種で、ケヤキヒラタキクイムシとナラヒラタキクイムシの2種が土着種で、他の5種は輸入種である。これらの種類は各所で発見されているものの、種により定着しているか否かは未確定であり、一層の調査が求められていると考えられる。

最近、筆者らは岩田(1982)により、はじめて日本から報告されたアフリカヒラタキクイムシを未分布の千葉県下で得たので、この機会に他の2・3の種と共に所蔵標本の採集データを記録しておくこととした。執筆に当たり、ご助言を賜った岩田隆太郎博士、三重県のケプトヒラタキクイムシの標本を恵与され、発表を許された多比良嘉晃氏に感謝の意を表する次第である。

1. *Lyctoxylon dentatum* (Pascoe)

アラゲヒラタキクイムシ

岩田(1988)がまとめた既往の記録と岩田(1994)によると、日本の北限は日光で、琉球列島石垣島まで各所で発見されている。野淵(1979)は、本種の標本を持っていないと述べているが、林業試験場昆虫第二研究室長という木材害虫を最も良く見ることの出来る立場にあった故野淵博士がこの

¹⁾ 帝装化成宇都宮本社研究部

種の標本を持っていなかったということは、少なくともこの頃まではこの種は各所で発見されているものの、その数は極めて少なかったのではないかと考えられる。

筆者の一人田中は1955~1962年当時住んでいた東京の自宅で相当数を得ている。東京での記録は古いが(LESNE 1901; 矢野1906)(岩田1988による)少ない様であるので、ここに記録しておく。

東京都渋谷区幡ヶ谷: 8ex (VI. 24, 1955), 5ex (VI. 25, 1955), 2ex (VII, 24, 1955), 20ex (VI. 28, 1956)

東京都世田谷区千歳船橋: 1ex (VII. 15, 1960), 1ex (VII. 17, 1960), 1ex (VI. 18, 1962)

以上でみると、東京では6月下旬から7月に成虫が発生している様である。

2. *Minthea rugicollis* (Walker)

ケプトヒラタキクイムシ

岩田(1988)によれば本種の国内分布は神奈川県から琉球列島石垣島までで、トカラ列島や沖縄本島からも記録され、奄美群島にいても不思議はないが記録はない。筆者の一人田中は下記の一頭を得ている。

琉球列島奄美大島湯湾 1♂ (II. 1, 1969)

これは蛍光灯のフードの中に溜まっていた無数の昆虫の死骸の中から拾い出したもので、前年の活動期にこの蛍光灯に誘引されたものであろう。三重県も記録はない様であるが下記を所蔵している。

三重県鈴鹿市 2♀ (VII, 1985; 多比良嘉晃氏より受領)

3. *Lyctus linearis* (Goeze)

ナラヒラタキクイムシ

岩田・中根(1988)によると本種の国内自然分布地は北海道のみである。野淵(1992)は北海道と本州北部に分布しているとしているが、“本州北部”を自然分布地とみているのか、移入定着したと考えているのか、或いは単に採集されただけなのか、“北部”の範囲と共に明らかでない。筆者らは下記の一頭を得ている。

栃木県佐野市 1♂ (VI, 1989)

屋内に設置された電殺器で捕殺されたものであるが一頭だけなので、偶産の可能性が高い。

4. *Lyctus africanus* (Lesne)

アフリカヒラタキクイムシ

岩田(1982, 1988, 1989), 野淵(1992)によると, 本種はこれまで国内では大阪府・奈良市・東京都の各所で発見されている。今回千葉県船橋市において 1♂ (V. 2, 1997) を得た。

これは群馬県で1997年1月に製造されたカップ麺の外装フィルムとラベルシールとの間で発見されたものである。発見時生存しており, 外装フィルムには直径1mm程度の食害痕と思われる穴が1箇所認められた。製品製造から発見まで4ヶ月が経過しているため, 製造段階で混入した可能性は

低く, 包装後に迷入した可能性が高いと考えられる。ただし, この製品は府中市を経て発見地である船橋市へ至っているため, いずれで混入が起こったかは明らかでない。

引用文献

- 1) 中條道夫, 1937. 日本動物分類長蠹蟲・扁蠹蟲科. 三省堂, 103pp.
- 2) 岩田隆太郎, 1982. ケプトヒラタキクイムシおよび本邦未記録種アフリカヒラタキクイムシの発生例. 家屋害虫 (13, 14): 60-63.
- 3) 岩田隆太郎, 1988. 日本産ヒラタキクイムシ科の分類および各種の分布と生態特性について. 家屋害虫 (35, 36): 45-54.
- 4) 岩田隆太郎, 1989. 奈良正倉院のアフリカヒラタキクイムシ. 家屋害虫11(2): 116-117.
- 5) 岩田隆太郎, 1994. アラゲヒラタキクイムシの九州における発生. 家屋害虫16(2): 98-99.
- 6) 岩田隆太郎・中根猛彦, 1988. ナラヒラタキクイムシの国内分布について. 昆虫と自然23(1): 16.
- 7) 野淵輝, 1979. ヒラタキクイムシ類の検索, 生態と防虫処理材. 森林防疫28(12): 214-221.
- 8) 野淵輝, 1992. 乾材害虫 I-タマムシ, ナガシクイムシ, ヒラタキクイムシ. しろあり(90): 29-54.

キーワード：ヒラタキクイムシ類；国内新産地。

Keywords: Lyctid beetles; Domestic new localities.